

令和8年度 病害虫発生予察情報

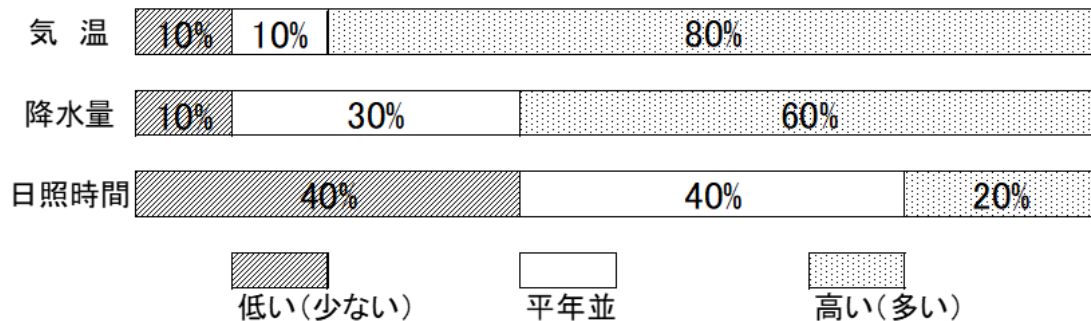
発生予報 第1号 (4月)

令和8年4月3日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並～やや多い
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	体スズウムシ	やや多い
	ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
野菜	タマネギ	ハダニ類	平年並
		ボトリア属菌による葉枯れ	平年並～やや多い
		白色疫病	少ない
	イチゴ	べと病	少ない～やや少ない
		腐敗病・軟腐病	やや多い～多い
		灰色かび病	やや少ない
		うどんこ病	多い
		アブラムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並

中国地方1か月予報(4月4日～5月3日・広島地方気象台4月2日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は、平年に比べてやや早い。
- ③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は、平年に比べてやや早い。
- ③4月の気象は、本病の発生に助長的である。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は、平年に比べてやや早い。
- ③4月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

- ①予察灯による前年の新成虫の誘殺数は202頭（平年101.2頭）と、本年の越冬量は平年に比べてやや多いと考えられる。
- ②4月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①前年の発生量は平年並みである。
- ②ナシの生育は、平年並みである。
- ③4月の気象は、本病の発生に助長的である。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は12.5%（平年0.0%）平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年0.0頭/バンド）と、発生量は平年並みである。
- ②4月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が6.7%（平年6.0%）、発病株率は0.1%（平年0.1%）と、発生量は平年並みである。
- ②タマネギの生育は、平年並みである。
- ③4月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

- ①3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が3.3%（平年22.7%）、発病株率は0.02%（平年1.7%）と、発生量は平年に比べて少ない。
- ②タマネギの生育は、平年並みである。
- ③4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、一次伝染株の1万株当たりの発病株数は0.8株（平
年6.5株）、発生ほ場率は20.0%（平年31.1%）と、発生量は平年に比べて
少ない。
- ② タマネギの生育は、平年並みである。
- ③ 4月の気象は、本病の発生に助長的である。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が50.0%（平年30.7%）、発病株率は
2.5%（平年1.2%）と、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② タマネギの生育は、平年並みである。
- ③ 4月の気象は、本病の発生に助長的である。

注）令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第1号参照

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発病葉率が0.3%（平年1.0%）、発病果率は0.0%
（平年0.2%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 4月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、一部で発病程度の高いほ場が認められ、発病葉率が
0.1%（平年0.0%）、発病果率は0.5%（平年0.1%）と、発生量は平年に比
べて多い。
- ② 4月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。

注）令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第2号参照

(3) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が30.0%（平年22.3%）、寄生株率は
7.0%（平年6.7%）、寄生小葉率は2.0%（平年1.2%）と、発生量は平年並
みである。
- ② 4月の気象は、本種の発生に助長的である。

(4) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が60.0%（平年78.7%）、寄生株率は1
6.0%（平年38.4%）、寄生小葉率は10.3%（平年24.9%）と、発生量はやや少
ない。
- ② 4月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去 10 か年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を 5 段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6 日以上早い	3～5 日早い	平年値を中心として 前後 2 日以内	3～5 日遅い	6 日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を 5 段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側 10% の 入る幅	外側 20% の入 る幅	平年値を中心として 40% の度数の入る幅	外側 20% の入る 幅	外側 10% の入 る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

3) 最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。
- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。

島根県病害虫防除所
 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
 〒693-0035 出雲市芦渡町 2440
 TEL 0853-22-6772
 FAX 0853-24-3342
 e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp